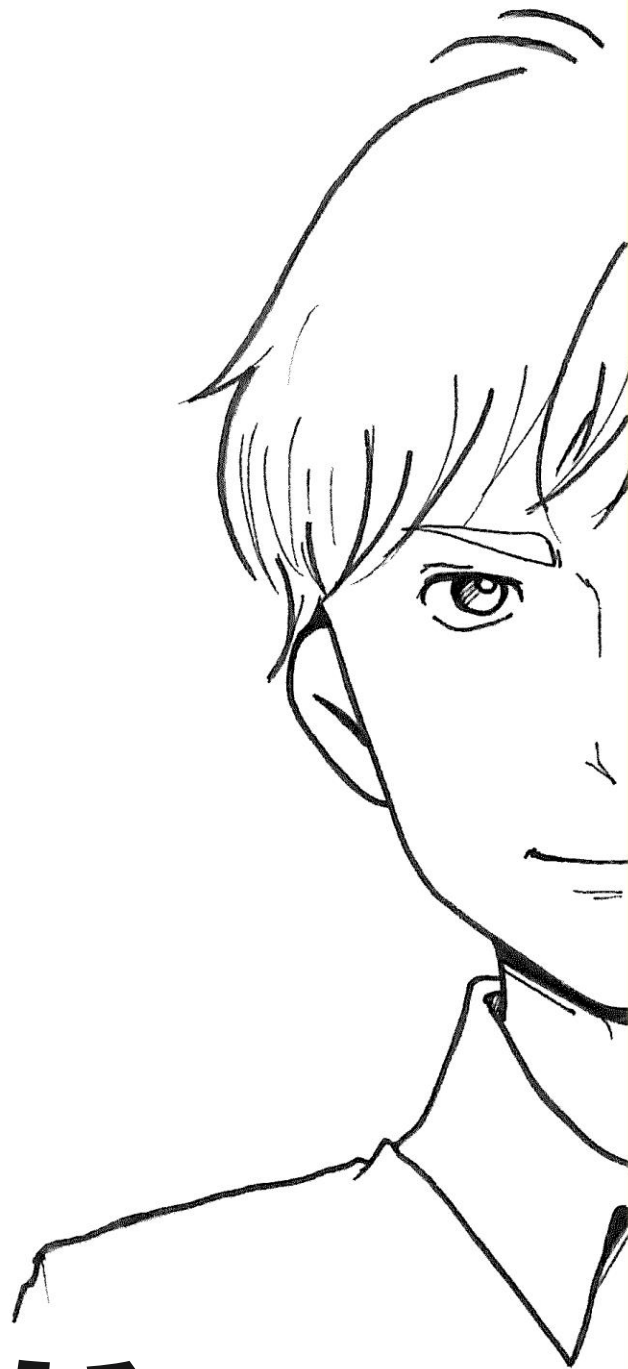


～令和2年度実施事業報告～

市民活動は未来へ



地域を支える
社会ニーズに応える



ミライカナエル活動
サポート事業

藤沢市役所 市民自治推進課
電 話 0466-50-3516
FAX 0466-50-8407
E mail fj1-jiti-s2@city.fujisawa.lg.jp



スタート支援コース

番号	区分	団体名	事業名
1	一般枠	障がいのアナ	リモートとメディアで繋ぐ「障がいのアナ」
2	ユース枠	SASP	子どもミュージカル上演の為にワークショップ

ステップアップ支援コース

番号	団体名	事業名
1	ホームスクーリングで輝くみらいタウンプロジェクト	ホームスクーリングタウン事業
2	特定非営利活動法人 湘南食育ラボ	湘南学園における出食、弁当配食、教育支援
3	湘南市民ワークショップ	市民活動オンライン化～WS・ライブ配信

〈令和2年度〉ミライカナエル活動サポート事業 スタート支援コース

団体名	障がいのアナ
事業名	リモートとメディアで繋ぐ「障がいのアナ」
補助金額	200,000円（一般枠）
事業の目的	
「障がい」や「福祉」に関する情報を伝え、互いに尊重しあえる地域社会をつくることが目的です。さまざまな背景のある方にリモートで取材をおこない、インタビュー記事を作成しました。WEBメディアで藤沢市を繋ぎ、「障がい」という言葉がもっと柔らかくなるミライを目指しています。	
事業の内容と成果・効果	
- インタビュー活動をリモートでおこない、記事を掲載しました。毎月のニュースレターをはじめ、紙版のチラシの作成や配架、団体紹介カードの作成などを行いました。 2020年10月：準備期間として、zoom登録やLINE公式アカウント、SNSを整備。 2020年11月～2021年5月：取材を実施。中間評価アンケート、最終評価アンケートを実施。	
＜成果・効果＞	
- サイト表示総数を増やすことができました。3,159（2020年7月）→22,079（2021年5月） - 読者層は「障がいのある方が身近にいない人」が45.2%、30～40代が71%というアンケート結果になり、団体の狙うターゲット層に情報を届けることができています。 - インタビュー記事の作成 19本作成 取材先：19カ所、24人（聴覚障がい者、パラリンピアン、車いすネイリスト、ペット関連店舗、障がい者雇用企業、精神科病院、就労移行支援事業所等） - ニュースレターの作成 6本 - 紙版チラシ作成 2種類 1000枚ずつ（2020年11月、2021年5月） 配架先：33ヶ所（福祉施設、飲食店、クリニック、雑貨屋、学校等） - 団体紹介カードの作成 1000枚。名刺として挨拶時に使用。 - SNSを活用した配信 フォロワー数：LINE公式アカウント 105、Instagram 141、Twitter 38、Facebook 358 - 中間評価アンケート：回答数 31、最終評価アンケート：回答数 31	
 	
ホームページに取材記事を掲載（写真左）。写真右は紙版ニュースレターと名刺サイズの団体紹介カード	
事業を実施しての課題	
- 継続することが課題です。記事を計画した本数以上に作成しましたが、コンスタントな取材、記事作成はできませんでした。生活の中への「団体活動」の組み込み、作業の効率化が必要です。 - 幅広い対象を取材しているため、1人の読者が読む記事数を増やすこと、また、サイト上にある記事を増やしていくことが課題でもあります。見やすいサイトの構築や、記事作成の継続が重要です。 - 資金運営にも課題があります。活動に賛同してくれる方を増やす具体的な策が必要と感じました。	

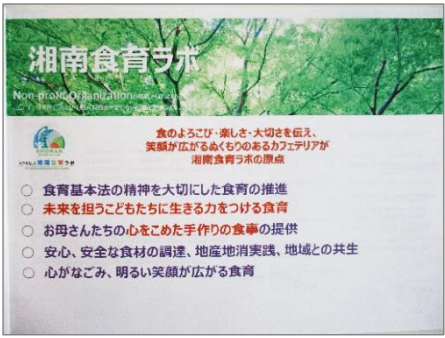
〈令和2年度〉ミライカナエル活動サポート事業 スタート支援コース

団体名	SASP (Sustainable Arts & Sports Project)
事業名	子どもミュージカル上演の為にワークショップ
補助金額	100,000円(コース枠)
事業の目的	
子どもたちに向けて、歌やダンスを楽しむ機会を提供することで、前向きな気持ちや自信を持ってもらいたいです。また、そんな子どもたちの姿を見た保護者や地域の方々に、文化・芸術の力を実感してもらい、文化・芸術がより重要視される社会を築きたいと思います。そして、最終的には表現を通じてコミュニケーション能力や独創性を重視するマインドを養った子どもたちによって、社会全体が多様性を受け入れ、いじめや差別のない豊かな社会になって行くことを望みます。	
事業の内容と成果・効果	
・ワークショップ、オンラインコンサート(2021年2月) 主に小学生を対象に募集をかけ、応募された11人に対し、4回のワークショップを行い、成果披露の場としてオンラインコンサートを企画し、一緒に出演しました。ワークショップでは滑舌、歌、ダンスの練習を1回3時間にわたって行い、最終的には一人ひとりソロで歌う経験もしてもらうことができました。 2021年2月:ワークショップ 全4回 参加者11人 2021年2月23日:オンラインコンサート YouTube再生回数1,238回(6月20日現在) ・ワークショップ(2021年5月) 引き続きやってほしいという参加者の声を受け、2.5時間のワークショップを4回行いました。 参加者には、SASPが出る予定であった藤沢ビッグウェーブのイベントと一緒に参加してもらいました。 2021年5月:ワークショップ 全4回 参加者14人	
＜成果・効果＞ ・ワークショップやコンサートに参加したキッズ達も、歌やダンスを通して、技術や感性を養うことができたのはもちろんの事、物事に真摯に向き合った経験ができたのではないかと思います。発表ではしっかりとソロを歌うことで、実際に自分に自信を持つ事ができたように感じました。ワークショップでのコミュニケーションの中で、いじめなど、家庭や学校ではカバーできなかった心の問題にも対処することができ、やはり文化・芸術には力があると感じています。	
 	
歌・ダンス・滑舌のワークショップを実施。成果披露としてオンラインコンサートを開催した	
事業を実施しての課題	
参加者や保護者から、さらに技術を高めたい、もっとイベントに出演したいという要望をいただきましたが、メンバーが学生であり、芸能活動もしているため、事務作業の部分が非常に課題です。事務局が一人の状態であり、連絡のやり取りから発表の場づくりまでを行うのは厳しかったです。さまざまな方(プロや業界人が望ましい)に関わってもらう必要がありますが、その費用の捻出についてを今後考えたいです。	

〈令和2年度〉ミライカナエル活動サポート事業 ステップアップ支援コース

団体名	ホームスクーリングで輝くみらいタウンプロジェクト
事業名	ホームスクーリングタウン事業
補助金額	500,000円
事業の目的	
私達はホームスクーリングという学び方が広く認知され、様々な理由から学校で学ぶ選択ができなくても受け入れてくれる社会を目指して、ネットや地域の色々なところを自由に使って学べる環境を整えています。そして社会全体を学びの場として活用し自らの状況に合わせた必要な学びを選択できる「ホームスクーリングタウン」環境をつくり、社会のなかで、子供達が興味のある事を学び、活躍する未来を描いています。	
事業の内容と成果・効果	
＜当事者の問題解決に向けた活動＞ - 不登校当事者親子に向けたイベントである、朝カフェ（8回）、ご近所探検プログラム（3回）、その他のワークショップ（3回）を、リアルとオンラインを合わせ14回開催しました。 - 参加者131名。親同士のコミュニティであるLINEグループは、当初70名から現在は83名に増加。 - 朝カフェ、ご近所探検チラシ4000部作成。社会福祉協議会や市内店舗、放課後児童クラブへ配布。 - 母親だけでなく子供も一緒に参加できる企画に挑戦し、親や地域の方が互いに子供に関わりあいながら活動するシェアシステムの小さな形ができました。 - 朝カフェでは地域の方を講師とする新たな企画をスタートさせ、親同士だけでなく地域の方や学生ボランティアさんとの繋がりを作ることができました。 - 新たな継続的プログラムとして『ご近所探検プログラム』を探究学習の専門家とともに行いました。当事者以外の目線を取り入れて実施したことで、当事者同士だけで活動する「閉じたコミュニティ」から、開いた存在へと変化する大きな一歩となりました。	
	
（写真上）市内各所でチラシを配布	
＜地域社会の仕組みづくりに向けた活動＞ - 他団体への視察4回、協力者訪問7回実施。 - 地域社会と関わりながら活動している団体を視察し、親子参加型企画や地域の方と交流する企画を実行。 - 地域の方々がプロジェクトに参加しやすく、且つ、協力者が見える化するためHPを改善し、地域協力者に向けた優待サイトを新たに構築しました。また、プロジェクト案内チラシも作成。 - 地域の方や商店会、自治会が、子供活動における活動場所探しに協力してくださいました。 - 補助期間中のホームページ更新48回、16,202回の閲覧あり。	
＜組織体制構築に向けた活動＞ メンバー間のミーティングを40回実施し、団体の活動方針を共有。特に、団体に、当事者親向けと地域協力者向けの2つの機能が必要になってきたことがクリアになったのは大きな成果でした。	
事業を実施しての課題	
当事者親を中心にシステム構築を始める計画でしたが、親同士だけで活動を広げていくことに限界が見え、活動方針を見直す機会を作れました。今後は当事者の問題解決に向けた事業と社会の仕組み作りに向けた事業を分けて位置づけ、2つの機能を明確にして進めていきたいです。	

〈令和2年度〉ミライカナエル活動サポート事業 ステップアップ支援コース

団体名	特定非営利活動法人 湘南食育ラボ
事業名	湘南学園における出食、弁当配食、教育支援
補助金額	500,000円
事業の目的	
多様化する社会の中で地域に根差し事業の巾を広げる為に、他のNPO団体、自治体などと連携し食育を推進します。「真の豊かさ」が追求される時代にあって、湘南学園内外を問わず多くの方々に食の大切を発信、体感していただき社会とつなぐことを目的に事業を推進します。	
事業の内容と成果・効果	
＜NPO本来目的の社会貢献実践＞ 湘南学園における食事提供、食の啓発から得た経験を基盤に、公益性の高い事業を目指し、今後の社会貢献に向けた道筋に繋ぐことができました。 ・広報 2020年9月：Instagram開設。活動やメニューなどを発信。 2020年12月：ホームページ更新 2021年3月：団体周知のためのパンフレット作成し、団体の理念や活動情報を発信。 ・研修 10月～4月：食育メニュー開発、衛生管理研修を実施。 ・食育メニュー提供、啓発 12月～2月：幼稚園園児に向けた食の提供と講話を実施。 - 有機素材を使用したメニューを開発。2月から提供開始。 ・通信環境整備 パソコン購入	
＜肢体不自由児預かり施設 NPO 法人 laule'a との連携・支援＞ 食のバリアフリーの課題発見、障がいを抱えるお子さんの家庭の状況など、これまでとは異なる次元の食の在り方と問題意識を得る機会となりました。 ・障がいを抱えるお子さん向けの特製メニュー開発 - 有機、天然食材による料理、環境配慮型の食の推進に取り組みました。 2021年2月～3月：食育メニュー、特製メニュー開発を目的とする研修を実施。 2021年2月～4月：メニュー開発。提供先：NPO 法人 laule'a（弁当配食に使用） ・食のバリアフリーを広げる 2020年10月～2021年5月：NPO 法人 laule'a とミーティングを実施。障がいのあるお子さん、保護者の方が共に職を囲めるユニバーサルレストランへの目的意識の共有が生まれました。 2021年3月：NPO 法人 laule'a の呼びかけで同施設の保護者、地域住民とのオンラインお茶会を実施。  （写真上）団体を紹介するパンフレット	
事業を実施しての課題	
・課題は、新たな目標を設定し取り組んでゆく過程の難しさです。コロナ禍の環境は、事業を進捗させる上で大きな心身の負荷となったことは否めません。今後に向けて、おかれている環境の影響に対する柔軟な態度で、事業を進捗させる姿勢の持続を課題としてあげます。 ・事業のパートナーとのコミュニケーションの重要性が極めて重要であり、既存の事業と新たな目標をもって事業に臨む上で組織的に問題意識を持ち続けることを課題として認識しました。	

〈令和2年度〉ミライカナエル活動サポート事業 ステップアップ支援コース

団体名	湘南市民ワークショップ
事業名	市民活動オンライン化～WS・ライブ配信
補助金額	440,000円
事業の目的	
様々なジャンルの講師がいる当団体がオンラインシステムを構築する事で、コロナに影響されずにワークショップやイベントを提供し、市民の心身の健康向上や、生涯学習・多世代の交流の機会作りに貢献したいです。また、コロナ前とは違う視点で人と繋がり、オンラインならではの新しいアイデアを実現し、将来的にはリアル活動に繋がりたい。	
事業の内容と成果・効果	
・Zoomによる団体定例ミーティングを実施しました。 ・IT等の講座を受講しました。 ・「浜辺の歌サンバ2020人で踊ろう！」企画で、リアルとオンラインを組み合わせ、楽器演奏、ダンス、フープダンス、アーティストックスイミング（旧シンクロナイズスイミング）のワークショップや成果発表を行い、プロモーションビデオ撮影も実施しました。 2020年11月：Zoomとリアルを組み合わせで開催（4回）。YouTubeライブで成果発表。 2021年2月：Zoomとリアルを組み合わせで開催（3回）。 2021年3月：Zoomとリアルを組み合わせで開催（2回）。福島いわきと湘南との交流オンラインイベントとして、ZoomワークショップやYouTubeライブ配信を実施。 2021年5月：Zoomとリアルを組み合わせで練習（3回）。プロモーションビデオを作成、公開。 ＜成果・効果＞ ・団体メンバーがZoom、エクセルやワード、クラウドファンディング、動画・HP制作などの講座を受け、団体の運営や活動のオンライン化が少しずつ実現できました。オンラインイベントでは専門家にライブ配信や音響を依頼すると同時に操作も学び、段々と自分達でできる部分も増えてきました。 ・コロナが収束せず、ワークショップやプロモーションビデオ撮影の実施も危ぶまれましたが、オンライン化の取り組みにより、活動を継続できました。Zoomで繋がり楽しめたと参加者にも好評でした。一方で、リアルワークショップは消毒や定員半減などの感染防止対策を行った上で、実施しました。音楽やダンスなどをリアル体験できる事も、参加者にとっては大きな喜びとなったようです。リアルとオンライン、それぞれ要望がある事が分かり、どちらにも応える事ができました。 ・Zoomを使うことで、福島郡山にある障がい者施設など、距離を超えたコラボレーションも実現。 ・コロナ禍によりプロモーションビデオは、大人数で撮影することは困難となりましたが、代わりに少人数でもプロモーションビデオを沢山作り、Zoomでの成果発表アーカイブもYouTubeに公開しました。	
	
（写真上）市内各所でチラシを配布	
事業を実施しての課題	
・オンラインでのワークショップには慣れてきましたが、成果発表をしながらのYouTubeライブ配信は、プロの力が必要。とはいえ、今後も団体メンバーだけで実現できないか、試行錯誤していきたいです。 ・会場のWiFi設備など、オンラインの活動がどこでも出来る状況ではなく、難しさを痛感しています。 ・Zoomでの参加は、まだまだハードルが高いようです。どのように働きかければよいか、工夫したい。	

発行：2024年(令和6年)7月